

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	大日本印刷株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
工場等の名称	株式会社DNPグラフィカ
工場等の所在地	名古屋市守山区瀬古三丁目902番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	総合印刷業（商業印刷）
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和5年7月28日 ～ 令和8年3月31日		
公表方法		掲示 閲覧	（場所） 当該工場 技術部指定場所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-758-4645		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

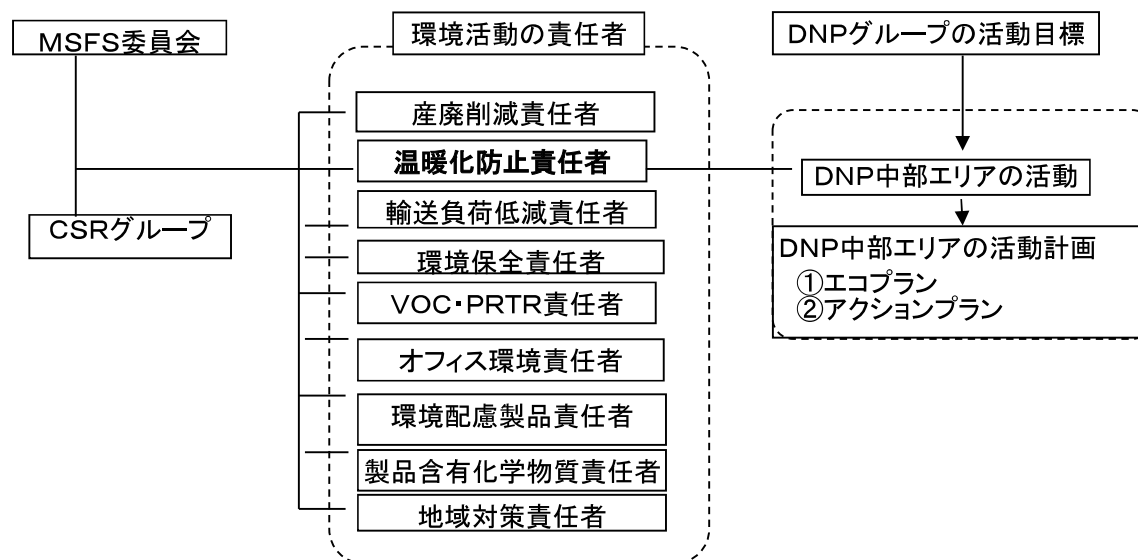
DNP（大日本印刷）グループ全体として温暖化防止目標が設定されており、当グループのCSRに関するホームページ（<https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/>）統合報告書及びDNPグループ環境目標のホームページ（<https://www.dnp.co.jp/csr/11theme/sustainability/target/>）より温暖化防止目標は確認して頂けます。この目標に向けて大日本印刷株式会社中部地区エリアでは、持続可能なマネジメントシステム（MSFS／労働安全衛生・品質・環境・情報セキュリティの活動を統合した自社システム）を設定し「地球温暖化」を推進しております。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

上記の持続可能なマネジメントシステムの中で下記体制にて責任体制を取り決め

活動目標・計画を策定して地球温暖化防止に取り組んでおります。

【MSFS会議体】



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		5,280	t-CO ₂
① （温 室 を 除 く 二 酸 化 炭 酸 ガ ス 排 出 量 換 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		5,280 t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 4 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 7 年度		
			目標排出量	目標削減率	
温 室 効 果 ガ ス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂	%

項 目	基準年度 令和 4 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 7 年度		
			目標排出量	目標削減率	
原 単 位 あ た り の 排 出 量	95.99	CO ₂ / 億円	91.19	CO ₂ / 億円	5.0 %

（2）目標設定の考え方

生産金額 1 億円当たりの温室効果ガス総量を温室効果ガス排出量原単位と致しました。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の推進	照明設備LED化 自動点滅器、プルスイッチ設置	年間120台更新予定
省エネルギー・省資源の推進	コンプレッサー更新	エアーコンプレッサー1台更新予定
省エネルギー・省資源の推進	転写部門照明LED化	200台更新予定
省エネルギー・省資源の推進	製袋部門照明LED化	420台更新予定
省エネルギー・省資源の推進	製袋部門空調機更新	空調機8台更新予定

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

事務棟来客駐車場照明を太陽光及び風力発電付き照明への切り替えを計画立案していく。

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

大日本印刷全体としてグリーン電力証書（日本自然エネルギー発行のバイオマス発電）を年間 10000 k w h の利用を計画

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

温室効果ガスの具体的な取組みとして輪転印刷機の乾燥機の温度管理及び長時間停止時の乾燥機停止により都市ガス使用量の削減を継続的に実施しました。 当該工場は継続して森林認証を取得しておます。この取組みにより広義な意味で森林資源の保護、森林によるCO2吸収の促進に取り組んでおり、認証材を使用して印刷物を製造することにより、お客様の環境配慮のお手伝いを行っています。また、地球規模的には地球温暖化防止としても間接的に継続実施中です。

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

6月を環境月間として社内活動の告知並びに教育を推進します。活動として①昼間照明のムダ・ロス削減、②コンプレッサーエアー漏れ改修によるエネルギー効率維持、③階段利用の励行、④6月5日の環境の日に社内放送による環境活動の啓蒙（省エネルギー、産業廃棄物削減などその他環境に関する取り組みを放送・掲示・社内イントラへの掲示等）を毎年実施する。